

第5回 松本市史 平成・令和版 編集委員会 会議録

日 時 令和8年8月28日(金) 9時55分～11時5分

場 所 松本市文書館 講義室

出席者 ・編集委員 遠藤正教委員、一ノ瀬幸治委員、渡辺宏委員、柏澤由紀一委員、
窪田雅之委員 (欠席) 直井雅尚委員
・事務局 逸見和行文書館長、木曾寿紀専門員(兼委員)

1 開会

2 あいさつ(逸見文書館長)

3 会議(議長 窪田委員長)

(1) 協議事項

ア 構成・内容などについて

(議長)

初めに、アの構成・内容などについて事務局から説明願いたい。

(事務局)

(資料をもとに説明)

(議長)

構成ということで、事務局に概要を整理してもらった。ページ数は変動する可能性はあるが一旦構成について説明してもらった。これに対して、意見・質問があれば。

(意見なし)

(議長)

後ほど章ごとの説明もあるので、構成についてはよいか。

(異議なし)

イ 執筆分担について

(議長)

続いて、執筆分担について事務局から説明願いたい。

(事務局)

(資料をもとに説明)

(議長)

第1章から第4章まで執筆ということで、一旦名前を入れてもらった。特に第3章、第4章は大事なところだが、構成も含めて質問・意見があれば。

(B委員)

各章の分担を含めて示されたので、具体的にイメージを持つことができた。構成のなかで「あゆみをたどる」と、その次の各地区の紹介のページのバランスが大きく変わったが、増減があった部分について、項目の移動など事務局で考えたこ

とがあれば教えてほしい。

（事務局）

内容が大きく変わったのではなく、「あゆみをたどる」のなかで現代に近い方が記載する内容が多くなるだろうということを考慮した。もう1点、35地区のうち平成の合併地区は少し多めに、それ以外は各2ページと考えていたが、中心市街地において各地区の特徴を具体的に書くことは難しい。実際の地区割と地域の特徴が必ずしも一致するとは言えないことから、エリアとして広くとらえて、その中で特徴的なことを挙げていくほうがスムーズではないかと考え、中心市街地をまとめることにした。また、中心市街地にあたる地区も、当初地区数×2ページとしていたが、まとめることによりそこまでページ数は必要ではないものとして減らしてある。

（B委員）

平成の合併地区を手厚くということで6ページ割り振られているが、合併前の各地区の様子はどこまで入れ込むイメージなのか。今回の松本市史が平成・令和版なので、各地区の平成から振り返ればよいのか、それとも、もう少し以前から振り返るのか、手厚くする部分はどのようなところか教えてほしい。

（事務局）

平成の合併地区については、これまでの松本市史に入っていないので、平成・令和だけでなく、もう少しさかのぼっての記述が必要ということでページ数を増やしている。他の地区は平成・令和が中心となるが、平成の合併地区については、それ以前の部分を含めて記述をお願いしたい。

（事務局）

合併地区で合併前に作成した自治体史のなかで触れられている部分もあり、それとの兼ね合いや平成・令和への流れの中で必要な部分もあるので、これらを考慮して進めていきたい。

（議長）

構成の資料にあるように、「松本市のすがた」のところに旧村、旧町の合併経過を入れ込みたいということ。私も近々に刊行された新しい市史を見たが、我々は1冊であるのに対し他都市は複数冊と違いはあるが、合併で市域に加わった地域については、ある程度合併前の経過を紹介する記述が多い。事務局もそれに沿って考えているのではないか。

（E委員）

第1章の「市政の動き、出来事」と第2章の現代の部分の関係だが、第1章は事務報告書や市政概要などを参考にして淡々と記述していき、第2章の現代は平成なので、市長の市政を中心に書いていくというイメージでよいか。

（事務局）

基本的にはそのとおり。

（D委員）

「あゆみをたどる」の時代区分のうち、「近代」は戦争が終わる昭和20年まで

なのか、明治から戦争が終わるまでと考えてよいか。

（事務局）

そのとおり。

（D委員）

戦後の混乱期は現代に入れるのか。昭和30年代以降は現代でよいが、戦後の混乱期をどうするか。

（議長）

D委員の考えがあれば。参考までに。

（D委員）

時代区分は難しい。戦争の前後はまとめたほうがよいのではと思った。

（議長）

いろいろな時代区分の仕方があって、かつては昭和前期が昭和20年まで、20年以降は昭和後期というとりえ方をした時代もあった。戦後しばらくは混乱しているし、政治的には占領体制が続いている。今回事務局が示してくれたのは、従来のオーソドックスな時代区分で考えているようだが、そのあたりはもう少し柔軟に考えてもよいのではないかとも思ったが、皆さんはどうか。

（D委員）

現代も平成以降、バブル崩壊以降はそれまでとはだいぶ異なるので、時代区分をどう考えるかというところにこの委員会の視点が出るような気がする。その時代区分の考え方から本文につながってくると思うので、平成・令和の意味をきちんと示したほうがよい。

（B委員）

戦後はどこまでととらえるのか。

（E委員）

若い世代、昭和の末期から平成に生まれた世代は、戦争はるか昔のことで現代とはとらえない。

（議長）

そういう世代間の違いもある。それから先ほど事務局から執筆分担の話もあったが、今回の市史は若い人たちにも読んでほしいということがあるので、タイトルやテーマも変更の余地があるという話もあったので、まさに時代区分や表記も考えて執筆すると全体的に良くなると思う。

（D委員）

普通に時代を切る方法もあるし、私が言ったのは生活感覚の話。これをどう位置付けるかというのは主観的なものでもある。それをどう入れ込むかはだれかが中心になってやらないといけない。

（議長）

今いろいろ意見が出たが、事務局どうか。

（事務局）

現代と近代の境目の部分については、昭和 20 年、1945 年がひとつの境目になると思う。例えば長野県史を見ると、そこを一つの区切りとしているので、それにそろえると分かりやすいのではないか。

(D 委員)

機械的に分けるということだね。

この委員会の思いを込めるなら生活感覚のほうがおもしろいと思ったので発言した。

(議長)

全体に関わることなので、今日結論が出るかどうかは別として論議はしたほうがよい。ほかには。

(D 委員)

35 地区のあゆみは、合併地区以外は平成・令和に焦点を当ててしまってよいか。

(事務局)

基本的には、そのとおり。

(議長)

第3章、第4章についてはどうか。

(B 委員)

第4章の未来へのノスタルジー&メッセージのなかで、芸術文化だけ8ページ割いているが、芸術と文化を分けて4ページずつにするとか、例えば、お祭りとか暮らした的なもの、松本ぼんぼんはどこかで触れられていると思うが、そういう観点もあるのかなと思った。今回示してもらったのはあくまで例なので、これから各委員が挙げていくと思うが、例えば写真や画像を使いたいというときに、使用料や著作権料を請求される場合も出てくると思うが、請求が来たら支払えるのか。予算はどうなっているのか確認したい。

(事務局)

現在のところ、著作権料や使用料は予算上想定していない。具体的にしないと難しいが予算計上を考えなければならない。

(B 委員)

漫画やアニメが出てくるが、画像なしで文字だけというのはどうかと思う。来年完成予定とすると、今年の秋の予算要求になるのか。

(事務局)

そのとおり。

(議長)

急かすわけではないが、できるだけ早く決めてどういうものが必要か検討する必要がある。予算要求とも絡んでくる部分があるので。ほかには。

(D 委員)

第4章は、執筆者の割振りがあって、項目、例も示されているが、項目に沿って書けばよいということか。例えば、宗教のところ「宗教界」とあるがテーマが大

さい。オウムからすべて取り上げてというのは困難。私なら中山霊園の変遷など他のことを書きたい。

（事務局）

例として挙げたのは、あくまで事務局でこのようなものが考えられるかなという意味合いで挙げたに過ぎない。実際書く方が、これとは全く関係ない内容を書いていただいてもかまわない。

（D委員）

そうは言っても、オウムやサリン事件はきちんと触れなければならないので、それは、各章に挟まるコラムに書けばよいのか。本文には触れているとは思いますが、トピックとして取り上げるものもあると思う。それについては、各章に挟むコラムで取り上げるというイメージを持っていたが。そうでないのであれば、第4章に入れざるを得ないことになる。

（事務局）

その点はフレキシブルにということになる。内容によっては第4章で書くもの、あるいはコラムに載せたほうが好ましいものもあると思うので、今後詰めながら決めていくことになる。

（D委員）

ということは、第3章まである程度仕上げて入れ込むコラムも決めておいて、それからこぼれ落ちるものを第4章にまとめるということでしょうか。

（事務局）

現時点では、第4章で何を書くか固まっていない段階なので、そこを出してもらうなかで方向性が見えてくると考えている。

（D委員）

第4章と同時並行的にやるよりも最初の方をきちんと仕上げたほうがよいと思う。そこから第4章を考えたほうが、第4章のアイデアも出やすいのでは。

（議長）

現在、第2章、第3章で記載されないようなことを第4章で表記するということになっている。進め方としてはいろいろあると思うが、D委員からは、第1章から第3章まである程度進めておいて、そこに掲載されていないもの、言及されていないものを第4章でということだと思うが、現時点で事務局としていかがか。

（事務局）

その部分についてはこれまで検討していなかった。コラムについて、どのようなことを取り上げ、どこに張り付けるかというところまでは考えていなかった。今のD委員の発言のように、例えばコロナやサリンなどはどこかで取り上げなくてはならない、それを第1章から第3章までのなかに入れるのか、または第4章で取り上げるのかをまず整理するという形で進めるのであれば、コラムとして記載する項目を決めなければならないことになる。そこで、コラムの扱いをどうするか、第1章から第3章の本文との関係でコラムをポイントとしてカチッと入れていくという形

であれば先に決めるということだと思ひ、各章のなかで必ずしも必要なものではない場合は後でもよいと思ひ。そのかわり第4章で拾うべきものは拾うということになる。その考え方を委員のなかで議論して方向性を決めていただきたい。

(B委員)

第1章から第3章に記載するものがしっかり決まって、段階的に降ろしていくのが決めていきやすいとは思ひが、・・・後で質問しようと思ひていたが、執筆スケジュールをどのように考えているのか。来年度刊行だったと思ひが。

(事務局)

来年度。

(B委員)

原稿はいつ締め切って校正作業もかなり時間がかかると思ひ、いつまでに書き切るかという考えは具体的にあるのか。

(事務局)

構成が固まり次第執筆も動き出すことになるので、現時点では決まていない。

(B委員)

個人的には執筆時間がすごく短いとて思ひていた。割振りがあるので執筆を担当するページ数は少し少なくなてくると思ひが、資料を集めて調査してまとめて執筆、もう1年も残ていない状況だし、先ほどもあつたようにお金がかかてくるようなものがあると、ある程度この1から2か月の間に想定される構成案が決まていないとお金も使えなくなてしまう心配もある。理想を言えは第1章から第3章まで本筋をしっかりとめてからがよいと思ひが、とにかく第4章やコラムについてもアイデア出しをこの2か月くらいで一氣にやててしまて、ある程度同時並行でやらないと後手後手になてしまうのではないか。

(議長)

刊行時期はいつ頃を想定しているのか。

(事務局)

刊行時期は来年度ということて、12月を目標としている。当然その前に印刷期間、校正期間が必要なのでかなりタイトなスケジュールになる。

(議長)

改めてスケジュールを作てて提示してほしい。

私からE委員に聞くが、以前の委員会において過去の経験から話をしてもらったが、第3章について各項目ごとに執筆分担を割り振ててあるが、この執筆の仕方はどうか。事務局では苦勞して割り振てくれたと思ひが、体裁面をそろえる観点からもう少し少人数にしたほうがよいのか、このような形で進めるのがよいのか、経験上いかがか。

(E委員)

前回は、各課から原稿が出てきたものをふまえて全部書いたが、今回はどのような手法をとるのか。おそらく各課から原稿は出てこないだろうから、ベースとなる

総合計画や基本計画のような冊子とか、各部概要を一律にそろえてもらって、それをベースに書いていくというふうに決めないと書きづらい。第1章も市政概要や事務報告書など基となるデータをそろえておいて、それを基に書くのがよいのではないか。第2章の松本市のすがたの「あゆみ」は工夫するとして、35地区のあゆみは各公民館に依頼するなどして資料をそろえて書くというふうにすべきではないか。アプローチの手法、ベースとなるデータを使って書くということでスタートしたらどうか。

（事務局）

委員発言のとおり。第3章については事務報告書を中心にそろえて、それをベースに記述していくのがよいと考えている。35地区の部分は、各地区に資料をお願いしていきたいが、地区によってばらつきがあるかと思うので、それについては資料を集めてみないと分からないところ。各地区には既存の整理したものがあれば出してもらいたい。

（E委員）

それでよいと思う。いずれにしてもある程度のものは今年度中に集めて書いてしまわないといけない。

（C委員）

「松本市のすがた」のところの地図は何を想定しているのかということと、文化財などとあるがこれは一覧表を付けるようなイメージなのか。

（事務局）

具体的なものは今後になるが、各地区の形を表すイラストのようなものを考えている。場合によっては近代以降の古い地図が入ることも考えられる。また、具体的な項目については決まっていないので委員の皆さんの意見をきいて固めていきたい。

（C委員）

旧市30地区は各地区2ページしかないなかで地図を入れるとすると、かなりスペースをとってしまう気がする。各地区によってボリューム感に違いはあると思うが少し気になった。

（D委員）

第4章の例をみると、必ずしも平成・令和に関係のないものが挙がっているがそれでもよいか。

（事務局）

必ずしも平成・令和固定ではなく、そこに絡む歴史的な部分を広く、そして読みやすく面白いなと思ってもらえるような章にしたいと考えているので、平成・令和だけに限らないととらえていただきたい。

（D委員）

「松本で初」というと平成・令和前が多いので・・・必ずしもこれを書かなければならないわけではないと考えてよいか。

（事務局）

今項目を示しているが、今後別の項目の方が良いということもあるかもしれないので今後調整しながら、と考えている。

（議長）

第4章については、事務局から何度も説明があったが、これは例示として示しているものであるので、例とは違う内容について書きたいとか、他の委員が担当している項目のなかで書きたいものがあれば書いてもらうこともあると考えているがどうか。

（事務局）

委員長発言のとおり。執筆者については仮に当てはめてみたというものであるし、項目についてもこれが絶対ということではない。例えばこれは書けないというものがあれば別の項目でということもあると思う。先ほどコラムとの関係について話があったが、第4章で書く項目を各委員に挙げてもらい、そのなかで、第4章で書くものと、ものによってはコラムとして書いたほうがよいというものがあればそれをコラムに持っていく。まずコラムと第4章をまとめて一覧を出して、その中から、大事だけれど簡単なものなどをコラムに持っていくというような整理をすればどうか。一旦は、コラムに挙げるようなものも含めて各委員から各項目で書く内容を示してもらうのが良いのではないかと考えるかいかがか。

（議長）

今の説明のとおりでよいか。

（異議なし）

（B委員）

時代区分のところで、戦争の時代をという話があって個人的には面白いと思いつつ、では戦争の時代をいつからいつまでと考えるべきかという難しい問題が入ってくると思っている。大まかなところは示されている時代区分でよいが、ページの制約があるので、そのなかで「こういう時代」「こういう時代」というように小分けにする方法もあるのではないか。松本市は平和の施策に力を入れているということで平和や戦争に関することを特出しすることは松本市史としてはあり得るのではないかと思う。

来年度松本市制施行120周年記念事業を実施するなかで、博物館でも講座を開催するという話が出てきている。この松本市史は120周年記念事業に取り上げられているのか。

（事務局）

正式に項目として挙がっているかは確認していない。ただ、実施計画上は120周年を記念してというワードを入れているし、来年度作るものなので、120周年を記念してと言ってもいいのではないかと考えている。

（B委員）

現状120周年記念事業を組み立てているという資料の中には入っていない。広くPRするのであれば、こういうところに載せて気分の醸成につなげることも必要

となってくるのではないか。

（事務局）

スケジュールはタイトだが、このようなものを作るとき何かに絡めてということはよくあることであるし、これまでも120周年を踏まえて来年度刊行予定として進めてきているので、なんとかこれに乗っていただけらと考えている。

（議長）

この事業の立ち上げにあたっては、市制施行120周年を記念してということでやってきていると思うので、今後の在り方は事務局で検討してほしい。

ほかには。

（意見なし）

（議長）

議事を終了し、進行を事務局に返す。

4 閉会